

支那に於ケル佛國、商業の獨逸并ニ米國、如キ比例に於テ發達増進ヒカルカ故ニ佛國が北京ノ外交舞臺ニ於テ列國ニ比有シテ其權利ヲ主張シ得ル正當ナル名義ハ其殖民地ニ於ケル利益、保護防衛ヲ除ク、外ハ耶蘇教徒保護、一率トス、佛國ハ曾テ王政時代ニ於テ人道、開化者、文明、木鐸タル耶蘇教徒保護、任務ニ當リシ以來、專政時代ニ至ルモ尚ホ之レヲ繼續シ次テ天津條約ニ依リテ松東諸國ニ於ケル耶蘇教徒保護、任ニ當リ降テ共和政治トナルニ至リテモ尚ホ總テノ加佛力宗教ヲ保護スルノ高尚ナル任務ヲ擔當シ善ク之レヲ維持シ來レリ故ニ佛國ハ支那ニ於ケル商業、利益ヲ保護ス

在外公館

ルヨリモ尚ホ一層ノ力ヲ盡シテ其高尚ナル無形ノ勢力ヲ保護スルニ力ヲ盡セルベカラズ

余ハ後ニ耶蘇教徒就中特ニ佛國宣教師ノ切實ニ紹介シテ之レヲ賞讃セント欲スルモノニアラズ然リト雖我加佛力教徒、博愛仁慈ニシテ克ク難ニ耐ヘ辱ヲ忍ビ山川萬里、程ヲ行キ千里不毛ノ地ヲ穰シ粟肉飽ク事ヲ獲ヒズ哀苦更フルニ暇アラズ善ク親善孤獨疾病瘡癩、後ヲ省護シ善惡惡業野文明人道、義ヲ辨セサルノ民ヲ感化シ慰諭教導録ラサルトコトナクモノニ至リテハ豈ハ人道、為ノ一言、感謝ヲ望ムルコトヲ得ンヤ

此等宣教師ノ人ヲ教導スルヤ文野ヲ以テ較

重ヲ為サズ人穆黃白ヲ以テ尊臬ヲ置カス其
眼ニ映スルトコロノモノハ一視其心ニ動ソトコロハ同仁
唯々愛憐ノ心アツテ而テ憎惡ノ情ナシ故ニ其
異教者タルト異人種タルト曾テ犯罪者ナリ
シ者ト其仇敵ナリシ者トハ彼等宣教師ノ
教テ區別スルトコロニアラス一意只ガ之ヲ善ニ導

クニアルノミ

苟クモ如斯ノ仁愛、如斯ノ至誠ヲ以テ之ニ臨マハ
縱令頑迷不靈濟ヒ難キノ清民ト雖モ
皆之ニ沛然トシテ帰シ靡然トシテ依ラサルノ
理アラレヤ余ハ其曾テ憎惡憎疾宣教師ノ
肉ヲ屠リ血ヲ濺クモ尚且御食ラスト為スノ心ツ有シ
タル野蠻暴戾ナル清民ト雖一朝恩ニ感シ感心

在外公館

ヲ解クノ日ニ重テハ必ス當ニ自カラ其面ヲ皮ガ其背ニ
刺シテ来テ前科ヲ謝シ而テ命ヲ致サント
欲スルモノアルベキヲ信ヒテ疑ハサハナリ

是等ノ宣教師ハ曾テ久シク呼テ無人ノ野、瘴
癘ノ澤ト為シ射利冒險ノ徒ニラ尚且ツ敢テ
行クコトヲ欲セサリシ重利加ノ内地ニ在リテ信ト
道トノ為ニ天壽ヲ全クセシテ其職ニ弊レタ
ル者少ナカラス而シテ彼等ハ尚遠ク亞細亞ノ東
端ナル異教殊俗ノ清國ニ駐リ諂諂務四出
四書凌辱斷ニルコトナキノ割ニ立ケテ温乎ト
シテ道ヲ説キ切々トテ教ヲ布キ邪ヲ道すテ正ニ
及シ其尊敬ト是等宣教師トテ言テテテリ且シテ
自家ノ信矢ト宗教上ノ靈運福トニ依ルト雖

抑も亦佛主ノ恩威ヲシテ兩ツカカラ其間ニ行ハシム
 ルニ於テ至大ノ熱切ナルモノト謂フ可キナリ蓋シ彼
 等ハ人道ヲ説キ福音ヲ傳フル際常に本邦
 ノ文物ヲ吹鼓シ故國ノ典章ヲ授揚シ不知不識
 間ニ於テ我佛主ノ名威ヲ遠達異文ノ邊陲
 ニ歎然タラシムルモノナリ而かも常に貴ハ其切ニ當ラ
 る徳アリテ聞ユルヲク忠ヲ奉玉ニ盡シ義ヲ人道
 ニ敷ハス彼等ノ如キハ特殊ノ獎勵ト至大ノ保護
 トヲ雙ニサレハカキサレナリ

久シク間世人ハ支那人ガ外ニ宣教師ヲ迫害スル
 事・其宗教的觀念ノ衝突ヨリ起ルモノト信ジ
 更ハ人ヲシテ此レヲ傳ヒシニテ望ムリ余ヲ以テ之
 ヲ見ルニ吾人ハ支那人ガ歐洲人ニ對シテ一線ニ及
 ばざるニ對シテ筆舌ヲ以テ之ヲ説諭稱弄
 スルカ如キハ支那官吏・以テ自ラ満足トスル
 所ヨリテ之レヲ道義シテ之ヲ殺戮スルニ
 至ルニ尚ホ新セラレサルノミナラズ亦ニ廢詞ヲ
 受テ貴金ヲ領スルノ利アルニ於テハ豈ニ黙シテ
 止ムモノナランヤ蓋シ於テ彼等ハ歐洲人ニ對
 スル暴行ヲ企テ先ヅ其手始トシテ宣教師
 ノ攻撃スルニ至ル而シテ支那政府ノ常ニ
 其口實トスル所ノモノハ曰クコレ無智無味ノ
 徒・迷信固陋ノ輩ガ其後未信奉セル
 宗教觀念ノ衝突ヨリテ蜂起セルモノト

在外公館

○此意ニ對シテ宣教師タルト否トシテ問ハズ之ヲ憎ム
 べしナルヲ洞見スル能ハサルモノナレバ如シ
 ○歐洲人ノ對シテ筆舌ヲ以テ之ヲ説諭稱弄
 スルカ如キハ支那官吏・以テ自ラ満足トスル
 所ヨリテ之レヲ道義シテ之ヲ殺戮スルニ
 至ルニ尚ホ新セラレサルノミナラズ亦ニ廢詞ヲ
 受テ貴金ヲ領スルノ利アルニ於テハ豈ニ黙シテ
 止ムモノナランヤ蓋シ於テ彼等ハ歐洲人ニ對
 スル暴行ヲ企テ先ヅ其手始トシテ宣教師
 ノ攻撃スルニ至ル而シテ支那政府ノ常ニ
 其口實トスル所ノモノハ曰クコレ無智無味ノ
 徒・迷信固陋ノ輩ガ其後未信奉セル
 宗教觀念ノ衝突ヨリテ蜂起セルモノト

為ニト雖其實際ノ入りヲ之ヲ見レバ支那人ハ
其所領宗教ナルモノニ全ク無頓着ナリ
モノナリ只ク彼等ハ歐洲人ノ對シテモ華人ノ
以テ自ラ居リ借儀ノ情事ニ其懐負
燃ヘ邊ニ獲ル外國人連署ノ筆トナルモノ
ナリ而シテ此等ノ連署ノ事ニ宣教師執筆
ヲ以テ始メル所以ハ其ノ政府ニ實フル口實
尤モ便宜ナルモノコレニ如クハナケレバナリ

宣教師ノ教書セラレタルノ報ヲ聞キ公使館
負等ハ相續テ曰ク身ヲ殺シテ仁ヲ為ス
彼等宣教師ハ職務ナリ假令其自ラ
豫期スル所ナルベシト雖彼等モ亦ク其
不用意ナリト云ハサルベカク免ニ前我公

在外公館

使ハ成規ニ後ヒ一應之ヲ衙門ニ照會スル
ナルベシ而シテ衙門ハ例ニ依リテ昏迷無賴
ノ使ノ所為ト為シ且ツ後未ハ再ビ此ノ如
キコトヲ為サバシメントテ其言ヲ回答スルナラ
ン而シテ此等ノ聖會ニ回答ハ實際ニ於テ
ハ何等ノ得ル所ナクシテ止マシムト此クノ如
クナルカ故ニ支那人等ハ益々其心裡ニ証々
タル排外的熱度ヲ高メ邊ニハ之レヲ推表
スル武歩ヲ取ルニ至ルヤ必然ノ勢ナリトス
而シテ其ノ時殺トナリ、放火トナリ、掠奪
トナリ、擄トシテハ虐殺トナルモノコレ只排
外運動ノ第一歩ノミ、實行ノ端緒ニル
ノミ、尚其邊ニテハ彼等ハ在清外人ヲ包圍

シテ之ヲ掃蕩セントスルニ至ルベシ、而シテ外人
 ハ正當防衛ノ為メ止ムヲ得スシテ應戰スレバ
 既に自ツケテ數年ト去ツ而シテ一黨ノ衆ヲ
 以テ一人ノ外國人ヲ攻撃スルカ如キ割合ナシ
 衆寡ノ懸、國ト敵スベキ、アラサルヲ以テ茲
 於テ支那人連戰連勝ノ報ハ誇張セラルレ
 變造セラルテ遂ニ全帝皇ニ傳播スルニ至
 ルベシ、見ヨ北京ニ於テ教會、ハクシ燒失
 ノ報ハ既ニ遠ク陝西地方ニ至レシニアラズヤ、
 夫レ此ノ如ク支那人民ガ益々排外攘夷ノ
 熱ヲシテ全國ニ傳播シ津滬セシムルノ事假
 若ク上リテハ莫ク用意ニサシモ同然スル所ナシ
 然ルニ之レニ至スル歐洲政府ノ施設ハ果シ
 テ如何ノ意ニ思フ。在清。在外の公館。
 金州人。慶毅ノ警
 備。於テ漸ク莫ク準備
 以上ノ數行ハコレ余カ一千八百九十一年、西
 四、重南地方ヲ巡視シタル際其所感
 得タルモノナリ然ルニ、日下拳匪ノ蜂
 起ハ遂ニ團ヲスルモ余ヲシテ先見ノ名ヲ
 為サシムルニ至レリ
 且ツ當時列強政府ハ支那人ガ我等外
 人ニ加ヒタル大ナル損害ニ對シテテテ
 賠償ヲ以テ満足シタリ即チ一千八百九十年
 天津條約ノ後ケエリ、此ノ條約ニ於テ
 損害賠償ノ如キ第一例トシテ見ルニモテテ

皇ツ當時一被ニ外國人の支那ヲ實ニ救リタ
ルヲ以テ著シ支那内地旅行者ガ其旅行
ノ實績ニ依リテ支那人ノ決レテ信用スルニ足
ラサルヲ疑スルモノアルモ之レヲ信スルモノナキノミ
ナラス却テ之ヲ嘲笑シ避々支那分前ヲ滿
スルカ也キモノアレバ老人ハ全ク之ヲ排斥シテ
紙上ノ空論ト為シ更ニ耳ヲ傾クルモノナカリ

一八八九年九月ニ著シ支那ハ近ニ支那ニ就ケル歐洲
人ノ注意ハ割會ニ安直ナルモノナリモ如何トシレ
バ支那人ガ國數種著ク殺害シタル際ノ如キ
其時債トシテ外ニ改行ノ要求セル金額ハ
甚ク僅少ナリシニ至テ支那政府ヲシテ其賠

在外公館

債ヲ支拂ハシムルニ至ルニ至リハ談判往復ノ為メ
ニ歳多ノ年月ヲ要シタリ 外ニ政府ノ支那
ニ對スル態度ソレ程ク如何ノ實重ニ過キカ
ルヲ以テ支那人ハ益々憎長シ来リテ其放恣
暴慢益々際限ナキニ至リ遂ニ支那人業
ハ其官吏ノ保護援助ヲ拒ミテ公然外人
排斥運動ニ着手シ滿南ニ其本部ヲ
置キ各省各外亦タ互ニ先取ヲ通シテ攘
夷的運動ヲ起スニ至レリ然ルニ當時此ノ
現然タル外人排斥運動ニ對シ目ヲ開
ケテ知ラサルモノ如クシ支那政府ニ向テ之ガ
抑制禁止ヲ迫リ若クハ之レヲ取締ノ手取
ヲ講セリリシモノハ幸々タニ併ニ政府ノミナ

予りも在清歐洲人の頻りに自玉の公使
 に向て其危險の迫り来ルヲ告グ豫防ノ手
 段ヲ取ラントトテ嘆歎シタルモ更ニ得ル處
 多ク以テ其吾人の如キハ逆ニ書ヲ奉玉ニ
 寄ルヒテ直々ニ大統領ニ嘆歎スルニ至レリ
 早ハ屯ニ其一例ヲ示スカ為メニ在九江ノ美
 西人業が遭害者ニテ時ノ宰相ヤリスバリー
 ン致シタル嘆歎書ヲ掲クベシ

大宰相閣下

清玉九江駐在美西領事ノ管轄區域
 内ニ在ル業業ハ甚ニ上書シテ以テ閣下ノ
 明鑑ヲ請ハント歎スルモノアリ
 今ヤ清玉ノ内地ニハ到ル處トシテ外人ヲ

在外公館

誹謗シ基督教徒ヲ譏誣シタル冊子ノ
 頒布セラルル地ヤシ而テ此冊冊子ノ題スル
 竹ハ人民ヲ煽動シテ暴徒ヲ起シレノ
 以テ外人ヲ殺害シ其財產ヲ滅却セシム
 ルニ在リ故ニ為メニスルトコトアルノ徒ハ甲
 唱乙和、雷同附加終ニ毒害愚無智ノ
 傳父野童ヲ起リ浩為トシテ相率ヒ
 テ以テ外人憎悪ノ念ヲ挑發シ外人ノ性
 命ト財產トニ危害ヲ及ブントセリ
 是等ノ煽動ト挑發トニヨリテ外人憎悪
 ノ熱ヲ寫メタル亂民ハ已ニ累數キニ二人ノ
 美人ヲ殺シ二人ノ外忌婦人ヲ凌辱シ尚
 ホ外人所有ノ財產ヲ奪掠破壊ヒリ

之レ比皆均シク世人ノ熟知セルトヨロシクモシテ亦
一日等ニシテ得ル所ナリ

駭後ハ幸ニシテ當時ニ平定ニ帰シ救済
ノ機民ハ極刑ニ處セラレテ一時尙ヲ結ヒ
タルモ、刑責地ヲ授ヒテ新ニ處セラレタル
者ノ中ニシテ全ク該暴徒ニ關係ヲ有セ
サル者多クシテシテシテ其巨魁ナル湖南
省ノシニハシ(人者)ノ如キハ善ニ刑ヲ免ラレ
タルノミナラズ却テ政府ノ恩賞ヲ受ケタリ
ト云フ。至リテハ是ニ對シテ例シタル
モノトシテ之レヲ責メタルハ假令借費
必斯ハ之ヲ既晴ノ支那政府ニ望ムハナラス
トスルモ是ニ對シテ一國政府ノ善名ニ無キ事

在外公館

ヲ殊スルノミナラズ私人ヲ曲庇シテ却テ
之ヲ賞シタリト謂フ。至リテハ其レ將テ
之レヲ何トカ謂ハシ。コレ明クテ外人ニ對ス
ル暴挙ヲ獎勵スルモノト非スシテ何ゾ
ヤ

サレバ久シク是即ニ在リテ善ク其事情
ニ通セル者、説ヲ聽ク。今駭後ノ平定
セルカ如ク見ユルモ之レ復ニ頓定セルニ非
スシテ一時之明罰ヲ收メ其時ヲ潜メシ
ニ過ギズ。又再ヒ教ヲ養メ群ヲナシテ
來テ外人ヲ整頓スルヤ知ル可キノミ而
シテ其再々暴舉來ル所。於テハ外人並
年財產ノ危殆ナルハ前同ノ駭後ヨリ

モ尚一層甚き事ナリモ、アルハ必ス可キナリ故
ニ今一瞬年定セルカ如キモ決シテ安心スニ
カラサレナリト

乱民蜂起ノ実情莫レ此ノ如ク在留外人
ノ危険ニ瀕スルヲ斯クノ如シ想フテ莫ク至
レハ神警ヲ氣遣ニ腹食ヲ安シテ其警
警ニ就ク能ハズ而シテ此界動ト危険トハ
外ニ政府ガ強請嚴詰支那政府ヲシテ
断然従来ノ非行ヲ改メレル。非スニハ
莫クソ能ク之ヲ鎮定シテ全ク災害ナキニ
至ラシムルヲ得ンヤ

在外公館

愛タカラシメンカ為メ、速ク慮リ深ク謀リ
以テ速カニ豫防ノ手暇ヲ講セラレン。一總
請ノ至ニ堪ヘズ

一千八百九十三年二月十三日

實地支那内地各省に在留人。シテ同様ナル
噴秋書ヲ送リテ以テ本國政府ノ注意ヲ
促シ其報ルヘキ豫防手暇ヲ報告セシ者少
カラス而シテ此等ノ危険ヲ豫告セル材料ハ
豊富ニシテ且十分信ヲ措クニ足ルヘク且ツ決シ
テ其時機ニ後レタルモノニアラス故ニ苟クも政
府ニシテ之レカ注意ヲサバ其災ヲ未だ
防キ得タルハ明ナリ。カレバ吾人ハ政府ハ此
等ノ危険アルヲ豫知セサリシコトヲ口ニ述ビ

予次々重慶ヲ克セルノ趣報ト為スヲ許サズ
 或通ノ遺状有モ徳以自取命者有ノ如キモ
 難取セル以存ヲ警覺スレテ之レヲ注意ヲ惹
 クニ足ラザリシナリ急慢ナル政府ハ事ノ危急
 ニ迫リ止ヲ得サルニ至ルニテ自カラ動ク
 モノモアラサルナリ一十八百九十五年ニ至リ我
 教師等ノ警覺ニヨリテ政府ハ始メテサレテ
 警覺シタル所アリ佛玉カ支那政府ニ對シテ
 予授書略使ヲ要求スルニ當リ外交談判
 ヲ以テ重立張ヲ費微スル能ハサルカ為メニ
 始メテ時ノ外務大臣アリトハ氏ハコアルジエリ
 及コイヌリトノ二派ヲ南京ニ派シテ以テ外交
 談判ノ後援ト為シタリ。係シヨレトモ日本
 在 外 公 館
 戦勝以後ノ予ニシテ支那ノサマテ恐ルニ足ラ
 カルヲサシク知リタル以後ノ事ニ屬ス
 世人ハ日清戦事ニ於テ日本ガ容易ニ取メ
 得タル戦勝ハ佛玉カ支那ニ對スル改竄ニ
 多クノ教訓ヲ遺タルモノナラト信スルモノ如キ
 モ事ノ實ハ其全ク然ラザルヲ信ス。佛玉カ
 支那ニ對スル改竄ハ事ノ同一ナル誤謬ノ軌
 道ヲ回轉セリ
 近頃雲南省駐兵ノ我欲事ニ多數ノ佛玉
 人等ニ他ノ改竄人ト其ニ非事ナル危慮ニ遭
 遇セリ其際外務大臣アルカモイ氏ハ事後
 院ニ於テ演説シテ曰ク政府ハ軍隊派遺
 ヲ承諾シ其旨ヲ欲事ニ通過セシタルニ支

部ノ事情。精通シ且ツ經驗アル領事ハ此際
 於ケル軍隊ノ派遣ハ非テ支那人心ヲ動搖
 セシムルノ虞アリトテ之ヲ拒絶シタリト。然リ右
 等ノ場合ニ於テハ何レノ政府ト雖軍隊派
 遣ノ手段ヲ執ルベシ此ノ手段ニ出ツル者豈
 僅ニ併立政府ノミト為スベケンヤ。而シテ一
 併立人が支那暴徒ノ為メニ骨ヲ折レ今ヤ
 將テ。貴山等。例レントス。コノ場合ニ於ケル軍
 隊派遣ハコレ自ラ別問題ナリ且ツD...
 氏ガ雲南ニ立ル暴徒ヲ鎮靜シ其附近
 ノ安全ヲ新ルカ為メ。兵士ヲ派遣シ居民
 此ノ費用ヲ以テ之ニ充テントラ請ホシタル。
 際シテ之ヲ許可シタルカ如キコレ亦多自カラ

在外公館

別問題ニ屬ス。抑モ條約ノ解釋ナルモノハ
 實解釋ノ方法如何ニヨリテ其意義ノ
 廣狹伸縮自ラ立ルベシトハ我締結者ノ
 一ナル美意ガ屬シ其例ヲ吾人ニ示シタル
 所ナレバ我併立人モ亦多其例ニ倣フテ之
 レヲ解釋ヲ下シ兵ヲ獲シテ吾ノ鐵道
 線路ノ保護ヲ為シ得ルハ當ラ吾人ニ
 許サレタル所ナルベシ
 北京ニ於ケル外交ノ方針ハ外務大臣ノ
 意ニヨリ公使ビシヨシ氏ト全ク其意見ヲ
 合フセリト云フ。復ニヨリアルベシ。至極結構
 ノコトナリ。但シ外務大臣ト北京公使ノ意
 見相全シキト云フハ始ヨリ今日ニ至ル迄

幸一相一致セリト云々在ルカ。若シ幸一
 相全シタリシト云ハ、余ハ後ニ一變向リ提
 出セラルヲ得ズ。彼ノ廣州湾占領ノ時、於
 ケルカ如キ公使ハ屢々詳カニ其事情ヲ具
 シテ報リ。日英使ノ詳報ヲ豫告シ、速カニ
 軍隊ヲ派遣スヘキ必要アルヲ促シタリ
 然ルニ外務省ハ何カ故ニ逡巡躊躇シ
 遂ニ二人ノ死者ト六人ノ負傷者ヲ生スルヲ
 待テ始メテ軍隊ヲ派遣シタルカ如キ、午後
 八ノ處置ニ出テタル者ゾ、余ヲ以テ之ヲ見ル
 ニ我佛兵ノ敗退ニ幸一同一ナル悲憤以テ
 ノ聲ヲ發シテ探守シテ少シモ幸一物ヲ遠見洞
 察スル能ハズ。盜ニ遇フ始メテ、幸一ニ陷テ

在外公館

幸一ヲ出テローラ企ツル者タリ何ゾ其レ盜
 遇ハサルノ始メニ之ニ備ヘ、幸一ニ陷ラサルノ始
 ノニ於テ之ヲ避ケルヲ為サザル者ゾ
 二年前ニ我佛兵ガ、フリンダ事件ニ於テ
 悲ルヘキ失敗ヲ蒙リタル所以ノモノモ亦均
 シクコノ無遠慮ニ無先見ニシテ疎忽至極
 ナル眼前政略ノ過失ニヨルニアラズヤ、今其失
 敗ノ詳細ヲ説クハ幸一ノ自内ニアラサルヲ
 以テ予ハ後ニ之ヲ省ク可シ
 我佛兵凶敵ノ此ノ如ク制ル處ニ其失敗ノ跡
 ヲ見ル所以ノモノハ、コレ決シテ其罪ヲ遣外使
 臣若クハ領事ノ無能ニ帰スヘカラス。我公
 使及領事ハ皆敬達善ク其任ニ適スル

モノナリ實報者其意見重ノ如キ事ナリ
 旨業ニ中リ。特局ノ宜シキニ叶ハタルモノナル
 ニモ拘ハラズ其属ク失敬ヲ来ス所以ノモノ
 一ニ當局者ガ其意見ヲ採用セサルニ帰ス
 ルモノナリ。當局者ノ言ニ曰ク此等ノ意見者
 祇昔昔事ハ公使顧問等ガ自己ノ手紙
 ナクハサンカ為メニスルトモロモロモシテ俾玉改
 存ノ實際ニ在ツ可キ事業ニ適セサルナリト
 時トシテハ其意見重ク一東シテ當局者
 棄スルニ至ル。何ソレランヤ其實ハ當局者
 ガ一昨ノ苟安ヲ備ムカ為メニ力メテ事ナラ
 適テテ以テ無為ヲ度成スルモノナラントハ
 然佛ニ外交改メハ其地民地改メト今

在外公館

牙角セルモノナリ例ハ備ホ車ノ前後ニ馬
 ナリ繋キテ而シテ之レヲ驅ラントスルカ如シ其車
 ノ遠ニスレテ其管ノ徒為ニ終ルヤ固ヨリ新
 切キノミ。佛國ニ一汎ノ政治家アリ余ハ概
 リニ便宜ノ為メニ此汎ノ人ナリ呼ビテ大陸
 主義ノ人ト呼ハシ。此汎ノ人ナリ外交事務
 ノ変遷ニシテ知ラズ今日ニ至リテ尚ホ百年
 以前ノ能ケル外交ノ旧夢ヲ懐遠ニテ外交
 舞台ハ幸ニ地中地以外ニ出テタルモノナリ
 トノ夢想ヲ懐キ東方問題ガ風ニ吹カレ
 高原ヲ飛越シテ直クニタルモノナリ。直線
 湾ニ轉リタルヲ覺ラサルモノナリ此等ノ人ナ
 ハ今日遠ノガブリケニ至ルハ七月王改時代ニ

於テ近クコメテシテ、行クヨリモ尚ホ短日月
 ニシテ到ルヲ得ルコトヲ知ラザル者ナリ、コレ等
 ノ人オハテオヒルゴトガ如キヲ迎送セシ時ハ
 今ヨ巴里ヨリ上海ニ行クヨリモ尚ホ困難ナル
 旅行ヲ為シタルモノナルヲ覺ラサルモノナリ
 今殖民政略ノ為メ、例ヘハ支那ノ海峽・
 一港ヲ得テ之ヲ右度野産所ト為ラバ大
 伴至ノ利益甚大ニシト説ク者アラシカ此等
 大陸主義ノ人オハ幸ニ自ラ改革ニ通
 曉セル者ナリト自傳セルモ、柯ウラニ實際
 疎庸ニシテ全ク當時ノ事情ニ通セサル
 一更ニ傳至ノ改革ノ事情ニ通セサル外人
 スラモ尚ホ之ヲ口ニセラル議論ヲ主張シ以テ
 在外公館
 在力斯ノ兩達論ニ及至ス可シ、ソレ此ノ如ク
 殖民政策派ニ屬スル人士ハ時トシテ急劇
 ノ前進ヲ為サント欲シ地ノ大陸主義一派
 ノ人士ハ其前進ノ甚ク速ク過ラント恐レ
 常ニ相補強辯取ヲ事トシ、辯強互ニ
 牽フテ遂ニ漢夫ノ制スル所トナルヲ惜ラズ
 漢夫トシテ誰ゾ予ノ明言ヲ待タスレテ鼓者
 ハ出ズ、其程度ヲ誤ラサルヲ傳ズ
 蓋至ニ我佛至ニ於ケルニ派ノ政治家カ相補
 強辯ヲ見テ、其カニ相慶シテ以テ之ヲ自
 國ノ由メ、制明セントス例ヘハ一八八九年ハ
 華上流ニ於ケル我佛界ヲ擴張セントスルノ
 際、方リ時ノ蓋至宰相ヲリスバ、一ハ

支那政府、告テク、回リ、若シ支那政府、コレヲ
 佛王ノ要索ヲ拒絶セバ、美王ハ支那ニ侵襲ス
 二有、効ナル後、必ク以テテス可シト
 コレ、フワシヨリ、事件後、任カニ、正三月、月ヲ、経タル時
 ノ出来事ナリ
 方ニ述ヘタル如ク、上海、於ケル、我佛王、領界、横
 張ニ、更シ、美王カ、之ヲ、妨害セシトシテ、支那政
 府ノ、敬愛シタル、事ナリ、美王、甚シク、老同ノ、論
 評、係ラス、シテ、過ギ、ヌ、コレ、喫痛ハ、同新ナク
 相違、無スル、ニ、飽キ、タレバ、ナリ、何トナレバ
 新聞ニ、浸述ニ、更批、評、年、論、ヲ、檢メ、而、カ、モ
 一敗、ハ、洋、々、タル、フワシヨリ、事、件、ノ、後、ナリ、シテ、以
 テ、世、界、ノ、復、タ、對、外、政、略、ノ、失、敗、ヲ、口、ニ、ス、ル、ヲ
 在 外 公 館

此ト政府ト国民モ其モ外交問題ニ莫シ
 ラハ一時無快者ヲ裝フタルモノ也
 數年前通商事件、ノイリ、事、件、ノ、就、テ、ハ
 後、後、ニ、於、テ、ハ、同、討、論、之、檢、メ、テ、其、細、察
 ナル、也、涉、リ、其、事、件、ノ、研究、モ、頗、ル、深、キ、入
 リ、タル、モノ、アリ、シ、ガ、現、今、ノ、支、那、事、件、ニ、莫、シ
 ナ、ハ、後、後、ニ、於、テ、ハ、同、討、論、ヲ、檢、メ、テ、以、テ
 自、カ、ラ、滿、足、セ、ル、モノ、也、如、シ

然リト雖、吾人ハ、敢テ、失望スルヲ、要セザルナリ
 先、後、ハ、事、業、ヲ、為、シ、坎、坎、ヲ、境、蓋、ス、種、民
 改、革、ノ、意、見、ハ、數、年、以、來、漸、次、世、人、ノ、注、意
 ヲ、惹、ク、シ、リ、更、ク、其、意、見、ハ、著、シ、ク、全、世、ニ、發、張、セ
 リ、吾、人、フ、テ、リ、ガ、東京、ヲ、佛、王、ニ、送、ヘ、シ、時、ニ

於テハ鐵カ東亞鐵道公債ガ十二年ノ後ニ
 〇差ヲ差面債額ノ三十倍ニ達セシメテ豫期
 〇モモノアラシヤ、サレバ吾人ハ亞細亞及亞非利加
 ハ殖民的昇平ニ經濟的戰争ノ於ケル戰勝
 ナルコトヲ決シテ忘却スヘキナルト同時ニ其
 戰勝ガ於ケル吾人ハ逸失セシムル一戰即ノ時
 機ト一失策トハ直ク〇吾人ノ戰争者ヲ制
 スルモノナルコトヲ忘却スヘキナラズ其後等者ナラシ
 吾人ノ國體ニ立リテ由新ナク飛耳張目瓜
 ヲ磨キテテラシテ其策スヘキカ際ノ生セン
 一ヲ務ムモノナリ

在外公館

部分ノ概略ナリ、コレ吾人ハ其美面ヲ見ルニ
 前々先ヅ其體面ヲ振スルノ要アリテ信スレハ
 ナリ、然リト雖佛國ガ支那ニ對スル政策ヲ
 以テ豈ニ盡ク其策ノミナリトスルモノナラシヤ
 若シ夫レノ更改良ノ宜シキヲ得タルモノナ
 ラバ其クレバ復タ多クコレアルヲ認めルモノナリ
 五十年以來此策〇能ク其方針錯誤ノ
 間ニ在リテ佛國ハ善ク列強諸國ト其平
 衡ヲ保テ文明ノ木鐸トシテ列強國ニ立
 ケテ和解者タルノ一大任務ヲ尽セリ假令
 佛國ハ屢々他ノ數國アル所トナリシト雖モ
 彼國ノ政變、戰争及政治上ニ於ケル戰
 争ノ難關ヲ通過シ来リテ尚ホ其方針トシテ

其東方關係、於テ無形ノ威カヲ維持シ得
 タルハ是レ佛玉人ノ言然トシテ自負スル所ナリ
 東洋ニ於ケル改海ノ風浪ハ常ニ搖蕩シテ止マ
 サル所ニシテ此間ニ航スル船舶ハ其ノ狂瀾怒濤
 ノ捲ク所トナルヤ屢ナリ然ルニ外交方針ノ能
 手タル北京ニ於ケル我公使ハ屢々更替セラレ
 タリ其甚シキ迄ニ屢々交替セラレタルニ拘ラズ
 而カモ其針路ヲ誤ルコトナク曾テ一定シタル方
 針ハ今に至ルモ尚ホ善ク之ヲ執リ彼岸ニ
 向テ進航セリ

在外公館

特ニ一千八百九十五年以來、一大刺戟ハ我東
 方政略ニ警鐘ヲ奏ヘ佛玉ニ許スニ滿帆ニ
 風ヲ孕テ暖風ニ乘スルノ好機ヲ以テシテ遂ニ
 日本ノ戦勝ニ至スル際ニ於テ佛玉ヲシテ
 幸ニ他ノ列國ノ背後ニ墮ツルニ至ラシメナリ

列國が支那に於て各々其自益の利益ヲ
 増進シ其權利ヲ擴張セント競争シタルノ
 結果ハ端ヲクモ列國利害ノ衝突ヲ来セ
 リ茲ニ於テ第一國ハ他國ヲ箝制スルノ止ムヲ
 構アルニヨリテ互ニ競争シタルカ為メ一時ハ
 止ムテ列國相互謙讓ノ風ヲ裝ヒ以テ支那
 ニ對スル土地ノ要求ヲ中止セサルヲ得ナルニ
 至レリ。此ノ如ク相競争ニ相制行スルハ
 固トコレ列國大局ノ利益ヲ害スルモノタル
 ナ見易キコトナリ然ルニ日本ノ戦勝ハ端
 ナクモ列國が支那ニ對スル要求ノ導火
 トナリ一千八百九十五年以來列國ハ其延
 延ヲ忍テ久シク收メタル瓜分ヲ現ハシ其

在外公館

怨ヲ充タサシカ為メ支那ニ向テ一時ニ其
 商業工業ニ特權ヲ要求シ并ニ其土地
 又ハ港灣ノ讓渡ヲ道ニ至レリコレ控東
 ニ於テ列國改政ノ特性ナリ
 上述ノ如ク日本戦勝ノ結果ハ改政列國
 ラシテ控東事件ニ容喙スルノ端緒ヲ
 開キ列國競フテ港灣ヲ要求スルニ至
 リ其情亦ハ収メトシテ停止スルトヨリテ
 ニ支那政府ヲシテ反動ヲ起カシメ曾テ
 其羽翼ヲ收メタリシ保主ニ其成ハ茲ニ死
 反再燃ノ勢ヲ以テ其炭煙ヲ揚ゲ改
 政列國ニ對シ強硬ナル態度ヲ取リ列國
 ノ要求ニシテ溫和ナル外交手段ニヨル者ト

鉄火ヲ以テ相脅迫セルモノナリトテ向ハズ外
 志ノ羈絆拘束ハ一切之ヲ拒絶スルニ至リ
 西太后朝ヲ聴クニ當リ改権ヲ擁リタル
 頑固党ハ先ヅ美國人ノ勢カヲ殺カシ
 為メニ自王帝ヲ幽シ親兵ヲシテ美國人并ニ
 其党徒ヲ殺サシメタリ(原文ノ傍)人民ハ固ト
 美西人ト併シ人トノ區別ヲ知ラサルモノナリ
 故ニ於テカ其何レノ國人タルヲ問ハズ外人トシ
 去ハ一殺ニ憎惡シタルモノナルカ故ニ遂ニ一
 網打盡ノ悲劇ヲ演出スルニ及ベリ依是
 觀之華事匪ノ蜂起タルモノハ民間ニ積弊
 シタル排外的精神ノ發露ニタルモノト云
 フヘキナリ

在外公館

支那人ハ前年日本人ニ敗ラレタルコトヲ
 早ヤ已ニ忘却セリ加之日清戦争ニ及
 スル傳説ハ支那ニ於テハ全ク變造セラレ
 テ人民ハ皆支那コソ日本ニ勝テタルモノト
 信スルモノナリ而シテ近年歐洲諸国ガ支那
 ヲリ得タル土地、港湾其他ノ權利ノ讓與ハ
 戦争ノ結果ニヨレルニアラザルヲ以テ支那人
 シテ幸ニ之レニ對シテ不満ノ念慮ヲ懷カ
 シタルハ歐州諸国將來ノ為メニ甚タ危慮
 シテ且ツ不利ヲナルトス、一旦讓與セラレ
 タル土地港湾又ハ其他ノ諸權利、實シテハ
 其戦争ノ結果タルト外交談判ノ結果
 ニ依リテ讓與セラレタルモノナルトハ其間區別

人存ニ一ト著。アテラレ。連ナル支那人ハ
 別居之レヲ悟ラサルナリ。カレハ吾人ハ更ニ新
 々。今ヨリ奮起シ支那國權ノ業。青春ヲセ
 サルヘカリス。支那竹藪ノ事業ハ數年前
 日本率志ガ獨力之ヲ企圖シタル。當リ政
 治諸君ハ未ダ之レヲ準備ヲ為サザリシト
 且ツ。支那ノ竹藪。祇テ自國ヲ割スルコ
 トヲナルヲ恐レテ日本ノ企テタル大業。業ヲ必
 害レタリ。カレハ今ヤ支那竹藪ノ責任ハ政
 治別居ノ免カレ得サル所ナリ。政外人ハ日本
 人ノ企業ヲ妨害シタル免責ノ美言ト支
 明傳播ノ自任ト。對シテ是非支那人
 竹藪ノ事業。當ラサルヘカリス。

在外公館

政治諸君、支那。世スル改革ヲ見ル。故
 ノハ。開港主義ニ起リ次テ。勢力範圍ト
 ノ義。移リ今ヤ其方三期ニ入ラントス。故テ
 向テ三期ヲ支配スルノ説如何。吾人ハ
 明言ヒシ。コレ支那分割若クハ保護不
 説是レナリ
 借問。分割義若クハ保護主義ハ急遽ニ
 行ハル可キカ。余ハ之レヲ知ラズ。思フコト行ハル
 ン
 理想スレハ吾人ハ今ヤ今世紀ノ最大事業業
 ノ途中ニ在ルモノナリ。而テ今世紀中ニ最モ
 光輝アル時代ニ在ル者ニアラズヤ見ユ
 文明人ノ野蠻志ヘ侵入。文明ノ東漸。

文明主義ノ分割 等ノ諸篇ハ吾人ノ歴史
 ニ於テ花々シク^種歌セラル、所ニアラズヤ
 自玉ニ關係ナキ外亞人民(支那人)ハ自カラ以
 テ是レリトシテ其陋ニ安ジ其生ヲ樂シム者ニ
 對シ吾人ハ之ヲ挽乱スルノ權利アリヤ否ヤ
 ノ問ヲ止メヨ。文明ハ奔流激流ノ如シ其
 一ニ巨流解トシテ奔騰スルニ當テマ向フ所改
 ナシ、抗スル者アレハ漫決シ、避ル者アレハ漂
 蕩ス。今や文明ノ潮流ハ支那ニ向テ傾瀉
 ス其金出ヲ滔スヤ知ルヘキノミ、コレ半當ノ大
 法ナリコレ^法源則ナリ感情改^改ハ今や全
 ク地ヲ拂フテ復タ之ヲ顧ル者ナシ
 若シ今直クニ支那ニ於テ此ノ文明ノ大法

在外公館

ヲ行ハントスルハ甚タ急激ニ過クルト為スモ
 ノアラズ^當ハ尤ノ注意ヲ請ハントス。支那ハ
 文明ノ途ニ上ルカ為メニ資本ノ必要ヲ有
 ス、外債ヲ募ランカ、之レカ擔保ヲ提供セ
 サルヘラズ^總令國稅ノ收入ハ之レニ當^當是ラ
 カルモ何ノ憂フル所カアラズヤ蓋シ其公債
 募集ニ慮スルノ^務ハ破坑採掘權、鉄
 道布設權、如キ其國ノ高工業ヲ發達
 擴張スル^ニ依置タル方法ハ皆其擔保トシ
 テ受クルヲ拒マサル所ナラハナリ、^提提言セハ文明
 侵略ノ路ハ之レニ依リテ開カルヘケレハナリ
 吾人ハ今ヤ、黄色人種ノ危^危虞、ヨリ遠^遠ナリ
 ナルモノナリ

予^ヲ以^テ之^ヲ見^ルニ、黄色人種ノ危險ナル説
 ハ未^ダ支^那人ノ稟^性ヲ十分^ニ知^ラサル人^士同
 道^ニセ^レレタルモ、如^ク支^那人ノ工業^ニ至
 シ^テは、旅行^家トシ^テハ、^ハポ^ール^氏ノ如^ク、^ハ結^氏ノ如^ク
 シ^テハ、^ハル^ロワ[、]ポ^ーリ^ニエ^ト氏^ノ如^ク、^ハ他^ノ諸^氏ノ如^ク
 以^テ、^ハ黄色人種ノ危險ナル説^ノ全^ク信^スル
 是^レニ^テハ、^ハ孰^シケ^レリ
 也^レ、^ハ黄色人種ノ危險ナル説^ノ以^テ、^ハ道
 ス^ルモ、^ハアルモ、^ハ余^ヲ以^テ之^ヲ見^レハ、^ハコレ全^ク
 杞^憂ノ^ニ執^ルタル^ヲ免^カレ^ザル^者ノ如^シ、^ハ或^ハ或^ハ
 百^年ノ^後、^ハ於^テ其^ノ危險^ノ生^スベ^キヤ^否
 ヤ^ハ固^ヨリ^之ヲ^豫測^スヘ^カラ^ザル^モ之^ヲ
 在^外公^館
 今日[、]於^テ予^ヲ請^スル^ニ、^ハ是^レハ^何レ^ノ、^ハ吾^人ニ^接近
 シ^ルニ^関ス^ル、^ハ非^レル^ニ、^ハ余^ノ固^ク信^スル^所ナ^リ
 假^令、^ハ諸^君ノ^唱道^スル^カ如^ク、^ハ現^今、^ハ歐^州
 諸^君ノ^輸入^スル^カ瓦^百ノ^貨物^ヲ、^ハ華^々ケ^テ
 他^日、^ハ予^ノ支^那人^ノ手^ニ、^ハ依^リテ^ハ製^造セ^ル
 ル^ニ至^ルト^スル^モ、^ハ高^ク、^ハ勤^者ノ^憂慮^スル^カ
 カ^如キ^ハ、^ハ危險^ノ生^セザ^ルノ^ニ、^ハ余^ノ、^ハ歐^州
 ト^ノ引^キ、^ハ益^々、^ハ増^加ス^ヘキ^ト、^ハ予^ノ、^ハ信^スル^ナ
 リ^カ、^ハ何^レト^ナレ^バ、^ハ今日[、]、^ハ歐^州、^ハ諸^君ノ^手
 出^スル^カ貨^物、^ハ他^日、^ハ支^那人^ノ手^ニ、^ハ自^ら、^ハ製^造セ^ル
 急^ニ、^ハ製^造ス^ルカ[、]、^ハ如^キ、^ハ工業^ノ、^ハ發^達、^ハ位
 此^レ、^ハ道^ニ、^ハ其^ノ、^ハ富^力、^ハ今日[、]、^ハ此^レ、^ハ、^ハ、^ハ
 道^ニ、^ハ隨^テ、^ハ其^ノ、^ハ購買^力、^ハ増^加ス^ルカ[、]、^ハ、^ハ、^ハ、^ハ、^ハ

ノ結果ナレバナリ從來ノ經驗ニ徴スルニ支那が歐洲諸國トノ取引ヲ開始セシ以來一般ニ支那人ノ零銀ヲ増加シ隨テ彼等生活ノ程度ヲ高メ其消費力ヲシテ著シク増加セシメタルハ著明ナル事ナリ故ニ今日東洋ニ於ケル歐洲ノ輸出品ヲ支那ニ於テ製造スルニ至ルモ例ヘハ紡績絲ノ如キ全ク支那自産ニ於テ製造スルノ所ニ至ルモ歐洲ノ生産品ハ尙ホ他ノ諸貨物ノ上ニ於テ其平衡ヲ得ルナルコトニ換言セバ支那人が銷貨絲ヲ買フヲ要セサルニ至レバ即チ從來之レニ充テタル金銭ヲ以テ更ニ他ノ歐洲産諸品ヲ

在外公館

購フ可ケレバナリコレ誠ニ見易キ道理ナリ。平易ニ之ヲ説明スレバ支那人ノ富力ニシテ増加スレバ其増加スル程度多ク西洋産諸品ヲ買入ルニハ(Reason) *ration l'Asie. par Paul Leroy-Beaulieu* (voir) 亦ナリ。若シ萬一支那ニ於ケル工業發達シ其生産品ニシテ歐米諸品ノ生産品ヲ凌駕シ東洋ノヨリ西洋ニ向テ輸出スルカ如キ時ニ至ルアラバ(余ハ其事アルヲ信セズ)則チ其ハ自産ノ生産品ヲ保護スルカ為メ支那ヨリノ輸入品ニ課スルノ禁止税ヲ以テシ又ハ更ニ他ノ處運ヲ施シテコレヲ輸入ヲ信ケルハ易クナリ

ノイコシ生活競争ニ必要ガ自出ニ促ス所
ナルベシ見ヨ未去ハ既ニ支那人劣弱者ノ
復抗ヲ禁止セシニ作スヤ

支那ノ兵力ニ関シテハ彼ノ有者ナル支那真
相 (Sincere)ノ著者并ニ先見ナルブルハ
フワルスキ (P. J. P. F. S. K.)氏ハ其決シテ恐ルニ
シカモ多クノトリ叙述シタル議論ヲ近年日
本軍ニハ事ニ其ノ上ニ之レカ証明ヲ受ヘタ
リ

民主及時来ニ於テ支那兵力ノ決シテ恐ル
ニ足ラカル所以ヲ知ラント欲ヒバ其内地人
民ノ軍情ヲ一瞥見セバ足レリ。抑モ支那
人ハ數十年來未古ヲ尚ヒ今ヲ賤シムノ性

在外公館

格ヲ内治シ来レルモノニテ其所謂克己
時代ノ政治觀念ハ深ク其盲膏ニ入りテ
糊肉膏骨復々醫スヘナラズ假令在界
道途ノ風潮ハ向新ナク四方ヨリ之ヲ警
覺セシト迫ルモ曾テ其沈痾セル種多ク
醫カスニ足ラズ彼等ハ徒ラニ古昔業
ノ思想ニ惹溺シテ永ク其政迷ヲ守リ世
ト推移ルヲ好ムナルヲ以テ到底濟度スベ
クナラサルノ人民ナリ此ノ如キ人民ニ向テ其數
十年來ノ頑迷ヲ覺セシ其膏痾入膏
ノ高古的習慣ヲ打破シ其思想觀念
ヲ根柢ヨリ洗淨シテ其平生生賤シム所
ノ式ヲ高ハシメ其曠ニ且ツ忘ルノ軍隊

的規律訓練ヲ得セシメント欲スルモ豈
 能ク翌日ノ得テ為ス所ナランヤ
 一千八百九十四年カールズバハ支那士官ノ持
 揮ニ屬セル支那兵ニ莫シ痛切ナル批評
 ノ下レテ曰ク「此等ノ支那兵ハ鏡ヲ背ミシ
 群衆ヲ鴨ニスルモコレ全ク訓練ナキ無教
 ノ徒ノ集合ノミ、此等ノ兵士ヲ以テ精銳ナル
 改可ノ得モ、兵士ニ抗セントスルハ恰モ「ハイド
 パーク」於ケル運命會堂ガ到任ヲ紅十字
 近衛長ニ當ルカ如シト

在外公館

シヤト唯ニ其衆ヲ恐レサルノミナラズ余ハ總令
 支那人ガ如何ニ其軍制ノ改革ニ焦慮
 スルモ我歐洲列國ノ兵ニ敵スルニ是ルヘキ
 轉長ヲ得ルハ極メテ難シトスル所ニシテ
 且ツ更ニ多數ニ於テモ改可ノ得キ之レニ備
 フル割合ニ慮シテ増加スルカ如キハ決シテ
 能ハサル所ナリ
 然レモ支那人ノ警備ニ就テハ予モ亦多ク之
 ヲ認ムルモノナリ故ニ一團ニシテ支那人ノ積
 任ヲ制限セズ莫キ未任ノ自由ヲ與フル限リ
 ハ南方亞細亞地方ノ如キハ陸境トシテ侵
 入難任セル支那人人民ノ石是ニ所トナラ
 シ然レモ支那人更ニ西部及北部ニ於テハ

高き人煙稀クシテ而カモ軍艦新作。艦
 二可キ度廣闊ナル上切ヲ有スルヲ以テ後未
 數十年留ハ之多數ノ人民ヲシテコニ移
 住ルシムルヲ得ルナラン
 此ノシカハ其有者ナル著書ニ於テ更ニ支
 那人種膨脹ニ及レテ滿シテ曰ク支那人
 種ノ膨脹ハ支那勢力ノ膨脹トハ全ク別
 事ニ屬ス加之支那人口ノ増殖ハ却テ
 政治上一致的勢力ヲ減スルノ傾向ヲ有ス
 ルモノナリト
 遂ニ所来ノ如何ニ變化スニキカハ今後ニ
 豫測スルヲ得ヘキナルモ今日ヨリ次デ起
 ル一キ五六十年留ノ形勢ハ茲ニ断シテ豫
 言スルニ難カラサルヲ信スルモノナリ 則チ支那
 が列強諸國ニ對スル關係ハ於テ之後未
 ノ現況 (Present position) ノ著シク變化ス一キ
 コレナリ
 其變化ノ模範ハ吾人ノ希望ニ違スルモノナル
 ヤ否ヤハ固ヨリ莫スル所ニテ之が如何トナレバ
 世界ノ氣運ハ必スレモ吾人ノ希望ト
 相一致スルモノニアラザレバナリ 吾人ハ如何
 其爲業ニ錯乱ヲ避ケテ一ヲ執望スルモ
 支那現今ノ情勢ハ吾人ヲ配テ衛衛突
 抵觸ノ止リヲ得タルニ至ラズレバモハナリ
 列強ニ從来屬ス支那政府ノ數ク所ト
 ナリソレガ爲メニ數多ク人命ヲ投シ無

在外公館

26

敵ノ被害ヲ蒙リタル後、今ヤ汚クモレテ支
那以テノ實言言説的ノ少シモ信スルニ足
ニケルヲ了解スルニ至レリ見來レバ到國ガ
之ヲ了解スルニ至ル迄ニハ甚シキ高價ヲ
拂フタル者ト云フベシ

今ヤ到至政府ハ之レニ慮スルノ道ニ如何ニ
セラルヘクテケルヤヲ知ルニ至レリ。既ニ支那政
府ノ少シモ信用スルニ足ラケルヲ悟リ且ツ復
國內ニ於ケル威信ハ全ク地ニ落テテ其年
否ハ人民ヲシテ遵奉セシムルニ足ラケルヲ知
リ且ツ五年以來ノ實績ヨリテ支那兵
ノ微弱ニシテ曾テ恐ルニ足ラケルノミナラズ
其内乱ヲスラ鎮定スルニ足ラケルヲ有

在外公館

破レル外至使臣等ハ此際支那後來ノ
經營ニ及シテハ力ヲ盡シテ復旧ヲ
遂ケルヲ為メ、從來支那ニ對シテ施シタ
ル處ニ主トハ全ク異リタル新方策ヲ執ル
サルヘクテケルヤリ

此際列國ノ先ツ途カニ決セラルヘクテケルモノ
莫各各人民ノ生計財產ノ安全ヲ保障
セシムルコトコレナリ此ノ新計畫ヲ施コスニ當
リ日本ハ如何ニシテ其任務ニ當ルベキカ、
今ヤ日本ハ其ノ管レテテ費シテ以テ外
人債務ノ償還ヲ盡シタル後忽チニシテ其
因果ヲ他人ニ收メラレテ知レルガ故ニ先ツ
其動靜ニ適應セタル前金拂ヲ受クルニ

非レバ其任務ニ當ラサルベシ
サレバ吾人ハ既ニ自國ノ勢力範圍地ヲ畫キ
タル占領地ニ因テ懷ニシテ分割同敷ヲ後
スルノ場ニ臨ムベキカ、或ハ未ダ其時期ニ達
セザルカ

此ノ混沌タル支那現時ノ情態ハ或ハ埃及
國ニ於ケルカ如ク列強共同監督ノ制ヲ生
出シ来ルベキカ或ハ列強中ノ或一國ニシテ
獨リ其營養食ノ慾ヲ逞フセントスルニ當リ
隣國ヲシテ害多ク之ヲ妨クルヲ得セシメン
ク為メニ直轄邊境附近ニ各兵ヲ守備兵ヲ
配置シ以テ支那ヲシテ列強共同保護ノ下
ニ立タシメ而シテ一方ハ列強諸國ニ全ハ此中ニ

在外公館

日本ヲ包含シテ云フ其同監督ノ下ニ在ル
支那政府ヲシテ人民ト列國保護國トノ
間ニアリテ其情實ヲ述フルノ任務ニ當ル
シムベキカ、余ハ右ノ画策ヲ以テ願ル事ヲ宣シ
遠シタルモノト思考ス、縱令之ヲ以テ無上
ノ良策ト知スル能クアルモ、是日此等ノ畫
策ヲ採リテ確カトシテ永久ニ決定スヘキ一
大時期ノ到達シ且ツ列強ノ權力關係ガ
更ニ亞細亞歴史ニ新ナル勢ヲ生ズルニ至ル
止、尚高善ク列強ヲシテ東洋ニ於テ平
和ノ關係ヲ鞏ク得セシムルノ効果ハ十分
ナラト信スルモノナリ

右ニ述ヘタル畫策ハ之レヲ実行スルニ當リ

夫ハ多少ノ困難ハ免レザルベキモ必スシモ実行シ
 難キモノニ非ルナリ余ガ故ニ世人ノ注意ヲ請
 ハント欲スル所ノモノハ抑モ支那人ハ國民的
 要素ヲ有セザルモノナルコトヲ記帳セラレシコト
 コレナリ上古ハ姑ク措キ秦漢以來ニ千餘歲
 ノ間、朝ヲ代ユル十有餘、及ヒタルモ其玉
 民ハ孰レノ朝廷タルヲ問ハズ善ク之ヲ奉
 戴シ来レリ而カモ其國主ノ中ニハ曾テ
 彼等ガ夷狄トシ胡虜トシテ賤視シタル
 蒙古及滿洲ヨリ起リタルモノアリ而シテ前
 者ハ即チ前朝ノ正統者ニシテ後者ハ即チ
 現朝ノ君主ナリ

在外公館

歐洲ノ植民地ニ於テ支那人ハ素來順ニ其
 行政命令ニ服従セリ見ヨ交趾支那
 シヨシニ於テハ於テハ於テハ於テハ於テハ
 管轄ノ下ニ其業ヲ営ミ新嘉坡ニ於
 ケル二十万ノ支那人ト香港ニ於ケル五
 万ノ支那人ハ善ク其官吏ノ命令ヲ
 遵奉セルノミナラズ支那本主ニ於テ
 尚且其ノ税関及郵便ニ及スル各種ノ
 行政事務ヲ皆歐洲人ノ監督ノ下ニ善
 ク運轉セルニアラズヤ
 支那事件ヲ處分スルニ當リテハ一大
 障礙ハ支那及其人民ニアラスシテ却テ
 列強諸國間ノ衝突及競争ニ在リテ

29

存不如何トナレバ支那其自身^{其物}兼ニ其人
民・國スル處分、容易ナルハ上ニ歸シタル
所ノ如キモ列國間ノ衝突及競争ハ、日
前ノ危急即チ北京包圍ノ解ラレ望ミ日
ヨリ直チニ發生スルコトヲ避ケ得ヘクナルカ
如キ歟アレハナリ

上陳シタル所ニヨリテ將來ヲ望ムハ、既ル憂
慮ニ堪ヘサルモノアリ今ヤ全世界ヲ牽ケテ
一大戦争ノ區ト變ジ修羅ノ巷ト化セテ
ル所以ノ原因ハ、各國ガ其或ハ敗軍ニ
終ラシカラテ恐ル、ニ帰國セルモノニシテ吾人ノ
有スル平和ノ擔保ハ、只一ニ之レニ繫レリ、
而シテ其早晚破烈スヘキハ得テ免カレ

在外公館

カニ所ナリ

然ラズ則チ其將ナキニ起ラシトスル軍事上
又ハ外交上ノ衝突、於テ佛玉ノ取ル一キ
伴度ハ如何、日ヲ強硬ト威嚴トコレニ、
而シテ先ヅツテ一ニ其權利ヲ保護スルヲ
要ス

支那ニ於テ佛玉勢力ノ存スル所以ノモノハ
加精カ教徒ノ保護ト勢力範圍地ナル
印度支那ニ於テ佛玉ノ有スル諸權利
ノ上ニ立リ、故ニ我佛玉ノ先ヅ強硬ニ維
持セサルヘクナル者ハ加精カ教徒ノ保護
ニ在リトス

其勢力範圍地ノ諸權利ニ及シテハ吾ガ

東洋殖民地ノ寶庫タル東京ヲ遺志ス
ベカラス東京ハ幸ニ其地方ノ豐富ナル
ノミナラズ其位置極メテ優勝ニシテ支那
内地各都ニ交通スル最要ノ関門ナリ
如何トナレハ此地方ヨリ四川及揚子江沿
岸ノ諸省ニ出テント欲セバ先ツ東京
ヨリ雲南ニ出ウルヲ要スレハナリ

而シテ尚ホラライ鐵道及雲南府鐵道ニ
注意セサルヘカラス此等ノ鐵道ハ西蔵、四
川、コイタエラ等ノ諸枝線ノ幹線トナル者
ニシテ我佛至ノ商業區域ヲ附近各地へ
擴張シ我カ殖民地ニ向テ日用必需ノ諸
貨物ヲ運搬スル為メニハ極メテ必要ナル

在外公館

モノナレハナリ
余カ佛至人一般ノ注意ヲ惹カント為メニ
右ノ點シタル所ノモノハ若シ佛至人ニシテ
雲南ノ鑛山ニノミ熱中シテ其他ヲ視ミヤ
ルカ如キアラバ上述ノ利益ハ佛至人ノ手ヲ
脱シテ直々ニ他者ニ收ムル所トナルヲ慮ハ
ナリ余モ固ヨリ雲南ニ於テル鑛山ノ有
望ナルニトハ少シモ疑ウザルナレモ和モ
之ヲ措テ彼ヲ競フ所以ノモノハ實ニ尤ノ理
由アレハナリ

東洋ニ於ケル佛至ノ競争ノ者ハ美玉ナ
ルヲハ吾人ノ夙ニ憂知セル所ナリ而シテ
其美玉ノ曾テ珠江ヲ開キ揚子江沿岸

ヲ自己ノ勢力範圍地ナリト聲言シ及ヒ香港ニ於テハ租界ヲ擴張シ其保界上ヲ増築シタルヤ如キハ我東亞將來ノ商業ニ向テ重シ一大打撃ヲ与リシノミナラズ英吾人ガ其ノ聖忍不拔ノ精カヲ以テ必ズ實行ヲ遂セントスル彼ノカルカッタト也間ニ於テハ英吾人業ノ大道ヲ作ラントスル大計画ノ一階級タルモノナリ

數年前前ニ於テハ人若シ美國政府カ其望望ヨリ改羅府ニ達スル直貫鐵道ヲ布設スルノ企画アルヲヲ競スル者アルモ世人ハ全ク耳ヲ傾ケル者ナク皆コレ實行スベカラサルノ説ナリトシテ排斥シタリシガ今日

在外公館

ニ於テハ著々トシテ其ノ實行ノ端緒ヲ見ルニ非スヤ、サレバカルクタ上地間聯絡ノ事ノ如キモ亦々疑フヘキ限ニアラズ
亞細亞ニ於ル出末事、就テハ吾人ハ終始注意シテ其觀測ヲ怠ラサルモ、而カモ其發現出沒ノ端倪スヘカラサルヤ吾人ハ豫想觀測ヲシテ却テ後ニ體若クシタルノ屬ナリ、然リ、然リト雖モ我佛玉カ支那南部ニ於テ占ル地位ハ優勝ナリ、加之佛玉人ハ支那南部ニ於テハ最先ノ操權者ナリ、サレバ其收獲ヲ為スニ當リテモ當先者ナラサルヘカラサルハ諦切キノミ

既ニ其ヲ費シカヲ盡シテ以テ其軍ヲ張
 リタル其時ニ其報^明ト結果トヲ得
 へキハ固ヨリ論スルマテモナキトタリ、而シテ
 其故ハ一キ結果ノ中ニハ支那北部ノ一港
 ヲ所得スル^トヲ包含スヘキヤ否ヤノ問題
 アリ、此問題ニ関シテハ其說ニ派ニケルカ
 知シ、此支那ニ於ケル一港ヲ佛玉ノ所有
 トナスヘシトシテ、我(數月以前)ニ在リテハ正當
 ナル主張ト見做カレタルモ、今後事件ノ
 發展ニヨリテ或ハ変更セラル、ヲ免カレサル
 ベシトシテ、支那政府ニ對シテ損害賠償
 ヲ要求スルニ當リテ直隸灣ノ入口ニ三
 ノ軍艦ヲ浮ベ以テ外交談判ノ後援ト
 爲^スルニ要スル談判ヲ擧取ラシムルニ於テ策
 コレヨリ妙ナルハナシ、若シ佛玉ニシテ直隸
 灣邊傍ニ於テ其所管ニ屬スル船舶避
 難所ト又ハ石炭貯蔵所ヲ有セシカ支那
 政府ト談判交渉ニ方リ直隸灣頭
 ニ我佛國軍艦ヲ浮動セシムルニ著ルニヤ
 便利ヲ與フルラン
 況ニヤ佛玉ノ軍艦ハ支那近海ヲ航海ス
 ン^ト既ニ數年ノ久シキニ亘リ且ツ佛玉
 軍隊ハ曾テ一タモ帝都北京ニ入りシ^{コト}アリ
 刺^スハ芝罘ニ於テハ其兵馬製造所ヲ
 有^スル^トも、^{蘇州}蘇州^ノ佛玉カ支那海岸
 ニ於テ果ダ一港ヲ有セサルハ歐洲列國

在外公館

ガ或ハ膠州湾ヲ占メ或ハ旅順大連ニ據
リ又或ハ威海衛ヲ領シ以テ各々支
那北部ニ於テ慘怛經營スル間ニ立テ
頗ル奇異ノ觀ナクシハアラス故ニ北支那
ニ於ケル歐洲列國ト其權力ノ平衡ヲ得ン
ト欲セバ佛國モ此間ニ於テ必ス一港ヲ
所有スルヲ要スト

然ルニ軍事上ノ經驗ニ富ミタル人ノ說
ニ從ヘバ佛國ハ北支那海岸ニ新タニ一
港ヲ所得スルモコレ亦タ英亞ノ為メニ其好
果ヲ収奪セラルル所トナリ佛國ハ後ラ
劣シテ功ナキニ了ラシムト今其理由ヲ聞
クニ彼ノフツシヨク事件ニ際シ佛國カダゴラス

在外公館

湾ニ水雷敷設ノ設備ヲ欠キシカ為メニ遂
ニ先占者ノ有ニ俾スルニ終リシヲ回想ス
ルモノナリト
先策ハ無為ヲ辨護スルモノニアラズ如何ト
ナレハ外交政略ニ於テハ無為モ亦タコレ一
ノ先策タルヲ免レサレハナリ故ニ佛亞ノ曾
テ其殖民事業ヲ於テカチテ先ヒタルノ
先策ニ總リタルヲ名トシテ後未殖民事業
業ニ突シテハ袖手傍觀ノ位地ヲ取リテ
無為政策ヲ守レルカ如キハ豈ニ英亞ニ總
リテ權ヲ吹クノ勢ヲ免カルヲ得ニヤ
今回ノ義勇團事件ニ依リテ支那ノ形勢ハ
大ニ變更スヘキヤ必セリサレバ事業後

形勢ノ変移、氣運ノ向ヲ所ニ関シテハ現ニ北
京ニ在リテ死生ノ向ニ出入シテ以テ此形勢ヲ
目撃シ親炙シタル人士等ノ説ハ蓋シ清政
策上其ノ聽クニキモハ多キヲ信ズ故ニ此際
政府ハ宜シク其公使等ノ説ヲ聽キ以テ
其政策ノ考ト為スベキナリ余ハ佛玉
政府ガ過去ノ経験ニ鑒ミテ彼ノクルルニ
軍件ニ於テ為シタルカ如キ失策ヲ再ビ
ヒカラシムルヲ切望スル者ナリ

政略ナル言葉ハ一ナリト雖其内國ニ関ス
ル政略ナル意義ト外ニ係ルニ於ケル政
略ナル意義トハ大ニ其解釋ヲ異ニセザ
ルヘカラス、狭義ノ意味ニ於ケル政略ナル

在外公館

言葉ハ其内國境ヲ出ツヘキモノトスルモ若シ
其内國境以外ニ在リテハ政略ナルモノハ專ラ
佛玉ノ利益ニ係ルモノトナリ如何トナ
レバ佛国内ニ於テハ不幸ニシテ地方的
感情ヲ害スル為メニ或ハ竟ラ各々派
ヲ立テ以テ相攻撃シ相及月ニ以テ外國
人ヲシテ密カニ其背後ニ手ヲ拍テ相度
ヒシムルカ如キ事ナラズ、幸ナク若シ外交事
件ニ係ルモノ方リテハ竟ハ別テ没シ地
方感情ヲ害スル者ナリ以テ全ク一佛玉人
ノ見地ヨリ相一致シテ以テ之レニ當ラザル
ベカラサルナリ

觀シレハ我佛玉ノ過去ニ於ケル歴史ハ全ク

名譽ノ歴史ナリ而シテ其相續者ナル
 吾人ハ此ノ歴史ノ名譽ヲ繼續シ兼テ之
 ヲ吾人ノ子孫ニ遺コスノ義務ヲ有スルモノ
 ニアラズヤ、古ヨリ富強ナル国家民人ノ為
 ス所ヲ見ルニ事ニ或ル事物ヲ前見ス
 ルニ在リ、先見洞觀スルニ在リ、然ラ寄
 ス我同胞ノ佛國人ヨ、我佛國ヲ作り且
 多幸ノ經營ヲ見ルニ只タ一政團結シテ
 以テ事ニ當ルニ在リ、

在外公館

我佛國人民ハ其曾テ世界ヲ驚カ動シ
 タル愛國ノ精神ト健剛ナル氣力トヲ
 現ニ保有シテ少シモ失フ所アリズ、佛國
 人カ其國旗ヲ遠ク海外萬里ニ翻ケタ
 ラシメ善ク其光輝ヲ發揚擁護スル所
 ノモノハ主トシテ此ノ氣力ト精神トニ依ラ
 スンハアリズ、今ヤ篇ヲ終ルニ臨ミ我佛
 國ノ為メニ奮頓倒セル愛國ノ念ハ吾人
 ヲシテ尤ノ言ヲ為スヲ禁セザラシム、請フ之
 ヲ聽ナン哉

”時ヤ迫リ、世界ノ運命ヲ定ムルモノハ
 ”高キ亞細亞ナル哉、我ハ茲處ニ精力
 ”ヲ創始シ、積大シ、強國ニスルヲ得シ、
 ”東洋ニ於テ横行洞歩スル者ハ歐
 ”州ニ於テモ其威權ヲ張ル者ナリ”
 (No moment est grave: "C'est encore
 en Asie que se décideront les

destinées du monde ; en Asie se
créeront, grandiront, ou se
fortifient les empires ; et celui
qui saura faire valoir sa part
en Extrême-Orient pourra aussitôt
parler bien haut en Europe.

Auteur du Tonkin (1891)

コレ余が七十年前に於て唱へたるモノナリ。七
十年前の確論、今日に於ても尚不確論
ナリ

(畢)

在外公館